

黒木西

黒木西小

学校だより

文責:校長 齋藤英義

令和4年3月24日(木)

NO.24



ご支援ありがとうございました

先週末(18日)、本年度の卒業式が行われました。昨年度同様、縮小短縮での実施でしたが、20名の子どもたちが、無事中学校へと巣立っていくことができました。

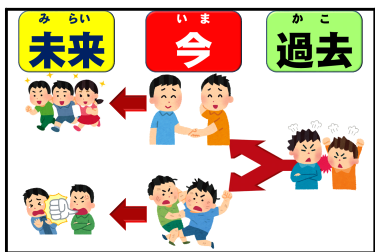
コロナ禍の中、子どもたちは、たくさんの方の力も借りながらも、自分たちの力を発揮し、黒木西小学校のバトンをしっかりと受け継いでくれました。

そんな卒業生へ、ある思いを伝えました。それは、左記のような思いです。



「過去は変えられないが、未来は変えられる」とよく言われます。確かにそうなんです。未来を変えられることが多いのは、意外と遠い先の話として考えられることが多いです。未来は「今」が積み重なった「未来」を変えられるため、実は「今」を変えようとする必要はありません。これまで読まれて、「あれ?どこかで聞いた話だぞ」とお気づきの方もいらっしゃるかもしれませんが、ここまでは、前期終業式(10月8日)で子どもたちと話したことであり、学校だよりNo.13の内容になります。私自身、その話を子どもたちにして以来、ずっと考えていたことがあり、そのことを式辞として話しました。

それは、過去の出来事は変えることができませんが、「今を変える」ことで、過去の出来事の意味や価値を変えることができるのではないかと考えています。例えば、友だちと喧嘩した時、友だちと喧嘩したという出来事は変えられませんが、原因を考え、その後の友だちとの付き合い方を変えて、友だちとのよい関係を築くことができれば、過去の喧嘩はただの喧嘩ではなく、友だちとの関わり方を学んだ貴重な価値のある体験となるのです。



つまり、「今を変える」ということは、未来を変えるだけでなく、過去の出来事の価値までも変えていく、高めていくことになるのです。

これから先、成功することはばかりではなく、うまくいかないことの方が多くはあります。しかし、そのうまくいかなかったことにめげることなく、「今を変える」ことで、成功もうまくいかなかったことも、ともに活かしていきたい人になってほしいと思っています。

ありがとうございました

本日、修了式を行いました。令和3年度を締めくくるにあたり、「忘れてはならない思い」をあらためて気づかせていただいた手紙等の一部をご紹介させていただきます。まず、「登校指導記録簿」より

〔3月15日〕

○(略)バス登校も残り少ないですが、最後まで元気に仲良くできたらなと思います。

また、早朝より子供たちを乗せて登校させていたいただいたバスの運転手さん、いつも安全運転を心がけて送迎して頂き、ありがとうございました。

子供たちが、毎日笑顔で無事に帰ってこれたのは、運転手さんのおかげだと思えます。これからも体気に気をつけて、たくさんの方の学生の安全を守って下さい。今年一年ありがとうございました。



次は、ゲストティーチャーとして、来校いただいた地域の方からのお手紙です。

先生へ

先日は、あたたかいお手紙をありがとうございました。最初の時間、ドキドキで緊張しましたが、先生や子どもさんの笑顔に助けられました。

うまく支援する事はできませんでしたが、孫といっしょに勉強している様で楽しい時間をもてました。コロナ拡大の中での学習も大変なことばかりだと思いますが、将来を担う子どもたちの為に、これからもよろしくお願い致します。(略)



本日、無事に修了式を迎えることができました。も、このようなスクールバス運転手さんであったり、地域の方々であったり、私たちが気づかないところであらためて気づかせていただきました。このような方々への感謝を決して忘れず、教育活動を進めていかなければならないと考えております。

次年度も職員一同頑張っていきますので、引き続きご支援ご協力よろしくお願いいたします。

